

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	1/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

## 1. 開会【企画財政部次長による開会】

省略（1. 開会については、別ファイルにまとめています）

## 2. あいさつ【市長によるあいさつ】

省略（2. 市長あいさつについては、別ファイルにまとめています）

## 3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明

### (1) 基本構想素案の概要説明

省略（3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明については、別ファイルにまとめています）

### (2) 都市計画マスタープラン改定計画案の説明

省略（3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明については、別ファイルにまとめています）

## 4. 質疑

### 【司会】

それではただ今より質疑応答の時間をとりたいと思います。本日は会場の都合がございまして、概ねあの時計で8時半前後を目安にご意見を頂きたいと思います。それで、ご意見を頂く中で、座間市長より皆様方から頂きました意見に対しまして、総括的なまとめを最後にいたしまして、この会合を閉じたいと思っております。質問にあたりましては、挙手をお願い致します。そうしますと私共職員がマイクをお持ちいたしますので、そこで発言をお願いいたします。それでは質問のある方の挙手をお願いいたします。

### 【質問者】

災害ボランティアの〇〇です。先程のマスタープランが150枚あると聞きます。これについてパブリックコメントを出してほしいと。この資料をどのような形で我々が見て大きくプランを描けるか。100何ページです。例えばコピーとしても100何枚自分でパソコンで行ったら、相当なお金がかかります。それに対しての問題。

それから小松原・ひばりが丘という地域は密集地帯で、災害が起きたときには消防車が入れないのではないかと。そうすると我々の行政とボランティアが一体になって消火活動する、それには消火栓がありますが、ホースがそばにない。そのようなことで、狭い所で火災が起きたら問題、ということも挙げます。

それからもうひとつは、この計画は10年、20年という、長期的には中学生を主体にした

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	2/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

考え方の教育をもっとやっていかなければ、マスターが出来ないのではないか、という3つの意見についてお聞かせ願いたいと思います。

#### 【市役所】

企画財政部長の宮代です。よろしくお願いします。

私の方からは、まず、今回のこの基本構想についてです。今日はお出しすることはできませんが、今150ページを超える資料になっております。これにつきましては、他の地域別懇談会でも、コピー代をどうするかというご意見がありました。この関係につきましては、やはり150ページとなるとご負担もありますので、極力ご負担の無いかたちで検討させて頂いております。4月からのパブリックコメントでは150ページとなりますので、調整させて頂きたいと思っております。

それから、中学生を中心としたという事でございますが、これにつきましては、先程政策課長が説明の中でお話しましたように、昨年の8月に小学生・中学生を代表者として子ども議会をいうものを開催させて頂いております。その中で、児童生徒が現実考えている疑問などが多くございました。これにつきましては、今回の基本構想の中に考え方や意見等を反映させて頂いておりますので、充分対応させて頂いているということでご理解頂きたいと思っております。以上です。

#### 【市役所】(小俣副市長)

2番目のお話の防災の関係ですが、いろいろお世話になっており、おっしゃるとおり小松原もひばりが丘もそうです。昨日相模が丘でこの会をりましたが、相模が丘も密集地区ということで、そういった火災等が起きた場合の対応は本当に心配しなくてははいけないと思っております。したがって、今回総合計画でも防災のことは謳っていますが、詳しい話は基本構想の概要版に載っておりませんので、ご心配だと思います。

やっぱり行政だけではできません。おっしゃるとおり、行政と地域住民の力を合わせてやっていく部分が非常に大事になると思っております。したがって、最初のお話にあったとおり、協働のまちという今度の総合計画でメインにしている部分でもありますが、今後具体的な部分について地域防災計画書の見直しなどの作業で、これが出来ます、と書いていく事になります。そのような所でしっかりと取り組んでいかなくてははいけないと思っております。ありがとうございました。

#### 【質問者】

今年、消防署で上級指導員という方に講座をさせて頂いて、我々も参加して、うちの座間市には上級救命士という消火栓から放水出来る教育を受けている人間が約30名います。そういう方も、いざとなった時に使う。今現在では我々はその消火栓から放水できるという許可になっていませんので、その辺もやっぱり考えて頂きたい。

#### 【市役所】

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	3/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

消防長の林でございます。

今現在市内に消火栓につきましては980基ございます。その中で格納箱の設置数は479、これはだいたい50%弱という状況です。格納箱の中にホースが2本から3本入っております。その中で消火栓からの範囲の中、3本ですと、だいたい予備ホースも入れまして50mぐらいの半径については消火可能ということです。

現在、自治会等の訓練でも消火栓で水を出してやる訓練は出来ない状態ですが、取り扱いについては、パンフレット等を作って自治会に周知をしているところです。今後ともこのような周知をしていきたいと思っておりますので、ご協力をひとつよろしくお願いいたします。

### 【司会】

次にご質問の方、はい。

### 【質問者】

〇〇です。財政上の問題で、先ほどのマスタープランの改定についてお訊ねします。

まず、各地域のゾーン関係含めてですが、かなり座間市の財政が大変だということで、当然順位、重点地域、順番について、この10年間についてお考え頂くと。これからということかもしませんが、やはり重点部分とかやり方など、どこを重点地域としてやっていくか、整備していくか、そういう事がありなのかが一点。

もう一点はカテゴリーが違いますが、先程から地域の人と協働でやろうという事、具体策はどうか。全部はいかないといいますが、かなり協働でやるという事で。財源上は色々お話がありますが、実際これから具体的にどうやっていくかという一歩踏み込んだお考えをお持ちなのかどうか。

例えば、今年の朝日新聞の社説に出ていましたが、大阪のベッタウンの池田市が、市の予算の使い道の決定に市民が参加出来る制度を実施しています。自治会等と協働で、自治会に出来る事はそちらの地域にまかせようということを含めて、つまり予算を一定の金額で地域に渡して、それを地域活性化、あるいは地域の協働の作業と一緒にやろうと、そういうお話が出ています。そこまで一歩踏み込むのだろうか、そのあたりの提案がどうなのか、お訊ねしたいと思います。

### 【市役所】(宮代企画財政部長)

ご質問にありました財政の関係で、ご指摘頂きました。ありがとうございます。

今日は概要版ということで、基本構想を主体に説明いたしました。したがって、今日のところは具体的な数字がありませんが、お示ししなければいけないと思います。この関係につきましては、今回この基本構想の下に実施計画、更には戦略プロジェクトというものを考えており、具体的には実施計画の中で財源的な裏づけをして事業を進めたいと、更にその事業を進めるにあたっては、財政は非常に厳しい部分もございまして、やはり事業の選択をして優先順位をつけたなかで実施しなければいけない、というのが今の考えです。したがって、今

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	4/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

後につきましては財政計画をしっかりとつけたなかで、実施計画の中でしっかりと事業を展開していきたいと思います。

あと、2つ目の協働まちづくりの関係で、大阪の池田市のお話いただきました。これにつきましては後ほど市長の方からまとめてご説明したいと思います。

#### 【司会】

ありがとうございました。それではまたご質問の方については挙手をお願いいたします。

#### 【質問者】

今実際に公園を見ておりますと、子どもはスポーツなどをやらない、やってはいけない。そうなってくると道路で遊ぶ、それも叶わない、やはり、なんらかのかたちをとっていけば子供たちも公園でスポーツが出来るのではないか、ということも考えています。やはり、地域一体になって子どもの健康というものを考えて、色々と市民の皆さんが協力しながらやっていけば、なんとか公園でも遊べるのだと。学校に行けば学校は5時で閉鎖になりますし、公園へ来れば公園も5時に閉鎖してしまう。そうすると子供たちはどこで遊ぶのか。やっぱり公園の利用というのは大事です。私が今やっているのは1日にのべ100人ぐらい、少なくとも50人、多いときはいっぺんに1時間に50人というかたちもありますが。遊び方も、やはり指導していけば楽しく皆遊んでいる。そこで悪いのは、公園へ来てゲームをやる。こんな馬鹿な奴はいないだろとって怒りますが、やっぱり子供たちを遊ばせる場所を提供して頂きたい。そういったことで考えております。

お答えはいいです、今後検討して頂ければ。

#### 【市役所】

ご意見として承ります。

#### 【質問者】

子供たちは、やはり大事ですから。

#### 【司会】

はい、ありがとうございました。それでは質問のある方、お願いします。

#### 【質問者】

重点項目で、4ページにある1~9までの所、言葉としてはかなり羅列してらっしゃいますけれども、やはりこの中でやっている財政の管理、3ページの上にあります将来予測を書いているところがありますが、これ財政上、特に、需要額がかなり多いのではないかと思いますね。この中で財政上こうですが、3次計画とここが違う、と。こういう所に財政を重点的に振り向けています、というのをお聞きしたいです。この1~9までの所で。例えばこの文教政策にし

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	5/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

ても、産業政策にしても、もう一回立て直さないといけない。また財政をつくるために、そういうものも協働でやらなければいけないとか。ここだけ表面的に見ると判らないので、もっと普通に判る方法で。もっと財政上の問題で、ここを重点的にやるのだというところまで動いて、全体の判断で踏み込んで生かしてやる、というように。その考えがあるのかどうかお聞きしたいのですけれども。

#### 【市役所】

今の4ページの将来目標の施策体系への質問がございました。私共、今9つの将来目標を立てるにあたっては、先程冒頭でご説明しましたが、今も第3次総合計画につきまして一昨年、約半年間かけて課題点や現状について精査を行いました。その精査の上になら、今回のこの第4次の総合計画の素案作りをした、ということです。

特にこの中で私共が一番心配しているのは、いわゆる社会保障費の関係、特にその扶助費が想像を絶するような数字で伸びております。特に今回、政権交代がありまして、子供手当の関係が大変と、21億という数字でのびているということを説明いたしました。この数字は1万3000円の分、つまり半額です。ゆえに、仮にこれが恒久的に続きますと、次の年には2万6千となりますから、単純にこの21億が42、3億になります。したがって、特に規制のある経費のなかの扶助費の動向をまず見て施策を展開していかなければならないという事で検討した結果を、これら9つの政策に反映しています。

ですから、どれが最も必要、という部分はなかなか説明しにくいですが、個々具体的な部分につきましては、実施計画の中で、選択と集中の中で優先順位を決めてやっていかなければならないと思います。

#### 【司会】

ありがとうございました。

#### 【司会】

沢山ご意見頂きました。残っている意見への対しての回答やまとめることもありますので、出来れば時間が間に合わないと思いますので、この辺で頂いた意見に対して、座間市長に総括的なまとめをお願いしたいと思います。

## 5. 市長による総括

#### 【市長】

それでは8時半近くになってきましたけれども、10分ぐらいお時間頂いて話をしたいと思います。今日は地域別の懇談会の報告会の最終回、第6回目ということで、これ今までに、各地域で頂いたご意見、ご指摘、団体別の懇談会の中で頂いたご指摘、などを振り返りながら、少しお話をさせて頂きたいと思います。

まず、ひばりが丘の〇〇さんの方から池田市の事例についてどう考えるかというお話を頂き

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	6/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

ました。これは昨日もどう思うかというご指摘を頂いており、朝日新聞に出ていたということから、そういう記事をお読みになったという方がいらっしゃって、これは面白いなという印象をお持ちになられたのではないかと。

実は今、池田市長が国と地方とのありかたというものを協議するための、「国と地方の在り方の検討会」がありますが、この全国市長会の代表として出ておりまして、今後の地方分権、地域主権のありかたについて一定の定見を持たれている方でいらっしゃる方です。昨年の全国都市問題会議というものが11月にございまして、私、宮代企画財政部長、さらには市議会の中の会派の4名の議員さんが座間市からは参加をいたしまして、ここで行われた会議の中で、池田市の事例発表を實際聞いています。この池田の取り組みというのは、池田市長が今回4期目ということで、過去3期やってこられた一連の流れをふり返りながら、大胆に切り込んで施策をやりたいという事で、過去4期12年の一連の流れを受けた中での、一連の総仕上げということで取り組みされたようです。

大阪の池田市というのは、だいたい私共座間市と人口規模が一緒の市で、大手の自動車メーカーなどがある市で、かつ大阪のベッタウン、よく似通った町があると思いつながら話を聞いていましたが、更に驚くことなかれということで、こちらも小学校の学区単位に11住区に区切られており、その11住区全体に初年度は7千万という予算を用意して、地域ごとに陳情要望権というものを付与するので、地域で固まって協議会を作って頂きたいということを行政のはたらきかけで行っています。それに応えて手を挙げて頂いて、その地域で受け入れのまとまりが出来た所には、予算の中から一定の枠を確保して、それについての地域の中での陳情・要望を地域の中で取り纏めをし、優先順位をつけて、地域固有の課題解決に使って頂きたい、というような取り組みをされています。

これは狙いが2つありまして、1つはやはり池田市も私共も同様、地域のコミュニティが非常に希薄になってきている。我が座間市でも、自治会の組織率が60%を切ってしまうという現状がありますが、やはり池田市においてもそのようなコミュニティの結びつきが弱くなってきている。地域の課題について、地域の中の皆さんが自ら考え問題意識を持ち、共有して取り組んでいただくということからすれば、そこに予算があれば、取り組みをしていきやすいだろう、と。これにも相当色々な議論や温度差があったりして議論百出あったと伺っております。細かい点については私も具体を申し上げられませんが。

もう1つはコミュニティをもう1回活性化、強化、再編成するということです。行政がそうした陳情要望をお受けして、課題の解決をしていくということになると、例えば今回この総合計画の基本構想の素案の策定にあたって4,500を超えるご意見を頂戴したと申し上げましたが、やはり色々なお考えがあります。12万8千の市民がいらっしゃれば、色々な価値観、お考えがあり、また地域ごとに先にやってもらいたいことが異なり、議論百出、それを全部受け止めれば本当に総花的なものにならざるを得ません。この基本構想という部分については、私はそれでよいと思っております。やはり市民にとって自らの地域、立場、世代間、住んでいらっしゃる環境によっても違うと思えますし、お仕事など色々な関係で求められるものは違うと思えます。それについて網羅して、皆さんが欲する、皆さんがこうあるべきだと思うことはこれだけ

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	7/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

あります、というのをまずご提示申し上げて、その中で何を重点的にやるのかということ、実施計画、さらには戦略プロジェクトという位置づけをして、行政としては優先順位付けをしながら取り組みをしていきます、というメッセージを出していく。それに対してまたご意見を頂戴する、このような二段構えでやる必要があると思います。今回お示ししているのは、基本構想の部分。

それで何を申し上げたいかと言いますと、そこで総花的になっている皆さんのご意見ご要望というものを、どのように整理をして納得できる形にさせていただくのかというように考えていくときに、1つの事例として挙げられるのが、昨日この懇談会をやらせていただいた相模が丘の「新生桜道の会」の取り組みでございます。これについては平成22年度の当初予算で、相当額の措置をさせていただきました。6千万と2千何百万とか8千万を超える予算を措置しました。

相模が丘地域も住宅密集地であって、お寺も神社もない、公園もやはり不足しているし、シンボルゾーンもありません。唯一シンボルゾーンとしてあるのが、仲よし小道の桜並木。

これが老木になっていて、いつ倒れるかわからない。事情を知らない方からすれば、あの桜の剪定をしたこと、それから危ない木を伐採したこと、これも市としては大変大きな批判をいただきました。なぜ切ったと。このさがみ野の駅前の6本の木を切ったときもそうですが、特に市外の皆さんなど桜を楽しみにこられる皆さんから、ものすごく大きな批判をいただきます。ただ、行政の立場からすれば、そこに住まわれている地域住民の皆さん、例えば相模が丘の桜並木であれば住宅はすぐ桜の木のそばにあって、それが倒れた場合にその住宅が倒壊する可能性もある。また倒れたことによって人が怪我をする可能性もある。実際さがみ野においては車が倒れかかった木によって損害があった、といったことで管理監督の責任を果たさなければ、万が一のときには私共座間市が行政刑事処分を受けることもありえる、という話もあります。これについてやはり管理をしている責任ある立場として、残念ながら現実と向き合わなければならない場合もある。

さらには、例えば桜の花が咲きました、散りました、葉っぱが出ました、毛虫が出ました、毛虫が出たから消毒しろ、こういう市民のご要望があります。しかし、一方では消毒はまかりならん、私は化学薬品過敏症でそんなものまかれたのではアレルギーが出る、など色んなお立場で色んなお考えがある。そうしたときに、あちらの相模が丘の仲よし小道もそうですが、大変失礼な言い方をさせていただきますけれども、長い年月の間に既成事実として公有地の部分を私的に利用されている方もいらっしゃいます。出入り口に使われてしまったり花壇になっていたり、野菜を植えられたり。そうした部分について行政の立場でやめて下さいと申し上げられますが、これについてどういう考え方があるか。今までやっていたのに何で文句を言う、今になって何を言う、こういうふうなご指摘も頂戴します。

しかし、それは地域の課題として捉えていただき、みんなの財産ではないか、それをみんな考えて譲るべきものは譲っていただく、あるいはこのようにきれいにしていきたいと思います。これをやれば、地域共有の財産として皆さんの合意形成ができたものに対して、予算を使い、

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	8/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

それを皆さん自身の気持ちの中から作っていくまちづくりということで、共にそれに携わっている皆さん、住まわれている皆さん、さらにはそれに対して共に仕事をさせていただきたい私らの立場にも、市民の協働という部分で大きな結果が出ると思います。

先ほどの話に戻ると、池田市の取り組みを俯瞰したときに、例えば防犯灯の関係の話があります。座間市では各地域で今LEDの防犯灯を平成22年度から試験的につけはじめています。次はどこだというお話を各地域からいただいております。この優先順位というのは私も非常につけにくいのが現状です。何を根拠にそこにしたのか、という話が出てきます。こうしたことについて、池田市ではその地域に任された予算の枠の中で、例えばどうしてもここは暗いからここには1灯防犯灯が欲しい、ということであれば、それは地域の中で課題解決のために決めていただき、ここに先につけようじゃないか、どこの道路の角にカーブミラーが欲しいからそれをつけようじゃないか、と。その地域の皆さんが実際に住まわれて、その中でここはまずいと思われる身近なところに役立てていただいて、予算の枠付けをしていく、ということがなされています。きめ細かな部分での地域のご要望というものにお答えしていくということからすれば、双方が納得できるかたちでの予算の執行ということも、ひとつのやり方ではないかということで、私もこれを非常に興味深く受け止めました。そうした部分は1つの実験的な取り組みとして非常に興味を持っております。

では、その前提をつくるためにまず何がいるのか、というと、やはり先ほどの〇〇さんからおっしゃっていただいた、地域コミュニティの活性化だと思います。

今回の総合計画を策定するに際し、今年の4月の冒頭に私の所見を話すときに、非常に財政が厳しい、予算も厳しい、これは私共座間に限った話ではなくて、全国的にそういう状況にあります。その中で、限られた予算の中で総合計画を組み、その中で、市民の安全安心を守り、将来に見通しを立てて明るいまちをつくっていくためにどのように有効活用するのかといえば、ハコです。例えば私が市長として「こうしたものをやる」というときに、あの建物を建てました、この道路をやりましたといった「ハコモノ」をやることは非常にインパクトが強いです。いわゆるハコモノ行政というような。

しかし、これはもう通用しません。そうではなく、これまで戦後培ってきたインフラストラクチャー、建物、道路、下水、水道もそうですが、こうしたものに適切なメンテナンスを加えながら、必要最小限のものについては新たに用意しながら、きちんと市民の目線で有効活用しながら取り組みを進めていく。このためには、市民お1人お1人の持たれているお力、これを有機的に結び合わせて人が生きていくまちにしていかなければ、計画を立てても実行できないし、その計画立案もできない。ここが原点だと思っています。

しかし、足元を振り返ってみると、自治会に関してはもう組織率は下がってしまっている、入って下さいと言っても何がメリットなのかという言葉が返ってきてしまう。これについては、今年度の自治会への加入勧奨という部分について、私共戸籍住民課にて新たに住民になっていただく方、住民登録された際の取り組みなど、自治会さんと協議をさせていただきながら、これまでと違った取り組みをさせていただく方向で考えております。しかし、いずれにしても、これは世の中全体の価値観の変化や、個人個人の興味の向かう方向などが大きく変わってきて



件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	9/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

いるということが大きな要因になっています。

今日ここに来る前に、ある地方行政に関する情報誌を読んでおり、防災に関する取り組みについての4市の市長さんの座談会の記事を見ました。福島県の郡山、岐阜県の可児市、東京の国分寺市、もう1市が愛知の岡崎の市長でございました。この中で防災、災害時の取り組みについて、地方都市は地縁・血縁のネットワークというものをきちんと維持し、活用しながら災害時の避難所の開設に関してきちんとしたネットワークができている。その中で、国分寺の市長さんが発言されていて同感でしたが、こちらは町内会の組織率41%。ここから変えなければならぬ、ということをおっしゃっています。そのためには何が必要かと考えていくと、逆転の発想です。これは〇〇さんなどの取り組みの部分で私共も非常にヒントになっているし、なるほどと思うのは、誰もが関心を持つのは地震だ、ということです。今年もハイチやチリで地震がありました。日本全国どこでも大地震はいつ起こっても不思議ではありません。これは避けて通れない自然災害であるわけで、そうなったときにどうするか。その際に自助・共助そして公助の部分の優先順位をどう考えるか、といったことについて関心を喚起していきながら、実践的な取り組み、地域や面的な部分でも最終的には自助・共助という部分になるので、その啓発を行っていく中で、地域の中に住まわれる方たちの関心を向けていただいて取り組んでいくことが必要ではないかと思えます。

もう一方においては、これだけ価値観が多様化していますから、それぞれの皆さんが持たれているボランティアの関係のネットワーク、さらには趣味の関係のネットワーク、同世代の子どもを持ってらっしゃるPTAの関係のネットワークなど、どういうネットワークでも、ここに住まわれている以上はどこかに地域と接点というものがあるはず。そうしたところを色々たぐりよせて、接点の中に人と人とのつながりというものを見出し、最後にはそうしたつながりが地域の中にどこかでつながってくるというものを、もう1回丹念に作り出していかなければならないと思えます。そうした部分では繰り返しになりますが、万が一のときに一番大変なことになる災害時の取り組みというものを、ネットワーク構築、再構築のためのひとつの手段として考えていくべきではないかと思っております。

それらについては、例えば自治会の再生の関係や地域のコミュニティの再生などについては、例えば実施計画や戦略プロジェクトなどにも謳い込んでいく必要があるのではないかと思えます。

それから戦略プロジェクトという話をさせていただければ、今日も子ども手当の関係についてのアンケートがニュースで流れていましたが、子ども手当で支給が少子化社会の解消につながるか、ということについては、65%がNoであるという答えがあった、という話だったかと思えます。

しかし、一方においてここで子供を持たれている世代の親御さんたちが、待機児童解消について、非常に大きな危機感を持っていらっしゃることも拝見しています。これも実際行政に携わっていて非常に大きな課題であると思っております。こういったものについても現状とりうる私共の予算的な措置、国と地方との関係、どういった補助をいただけるのか、また、国が待機児童解消に向けどのような方向性を持っているかをきちっと捉えた中で、費用対効果を含めて

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	10/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

取り組んでいく必要があります。このような面については、今の実施計画や戦略プロジェクトなどの部分に位置づけ、その中で施策を実行していく所存です。

この基本構想とその二次的な部分、三次的な部分との違い、なぜこれが出てくるか。もう1つ肝心なお話しをしますと、先ほど企画財政部長が子ども手当でのお話しを申しましたけれども、私共の一般会計の予算平成22年については337億余で組んでおります。それ以外に国民健康保険の関係、介護保険の関係、老人健康保険の関係、上水道の関係など、特別会計といった部分の別会計になっている予算も含めると、約592億の予算規模となっています。

まず、一般会計を考えてみると、一般会計の予算337億、歳入はどこにあるのかというと、自主財源は今年の場合58.7%でした。去年はこれが67%近くありました。ここで9%ぐらい落ちてしまっています。何が原因かということ、1つは基本的に税収が下がっているということが挙げられます。

しかし、これには数字のマジックがあり、昨年度の当初予算、一般会計312億余が337億余に約25億増えています。増えているうちのほとんどが子ども手当です。子ども手当の部分のお金というのは、実は国からいただくお金であるので、依存財源の部分になる。ということで、数字のマジック全体の337億に占める依存財源が増えていますから、自主財源のパーセンテージが減った格好となります。これは、他にも生活保護費の支給事業というものも同様です。約30億円の予算投資をしておりますが、そのうちの4分の3は国からいただく依存財源です。30億であれば、すなわち、22億5千万が国からおりてくる、7億5千万が私共の自主財源から出ていく。これが例えば生活保護費が10億円であれば、2億5千万が自主財源で7億5千万が依存財源、トータルの予算で自主財源比率は下がります。

この市の財政という問題を考えたときに、基礎的、義務的な仕事、特に市民の福祉・教育関係の仕事など、地方公共団体としてやらなければならないとする仕事があります。それは大方国との関係で、補助金により全て賄われています。また国が出すため、市では4分の1程度拠出した部分であるということで、非常に大きく国とリンクをしたものがこの事業にあります。総合計画の中に謳い込んでいく事業1つ1つも、全て市の単独事業であれば市独自で考えを決めて、予算の配分をすることになりますが、ここに謳い込んでいく事業、例えば福祉の関係、教育の関係などは全て国の施策、国の事業と大きくリンクをしていくこととなります。ということで、これは現状においてその国のあり方、国の方針、それから私共の考え方というものを整理して総合計画に位置づけし、当初の実施計画に位置づけをし、取り組んでまいります。今回の子ども手当の例ではないですが、政権交代をしたことによって大きな事業が出てきます。これらについても、今後10年間どうなるかわからない部分もあります。それらのことに対して柔軟に対処しながら計画の中に盛り込み、実際に使用する実施計画のベースに落とし込んでいく作業も当然必要になります。そのようなことから、5年間を目途に基本構想を見直し、そして、4年ごとにこの実施計画の見直し、さらには2年ごとのローリング、改定も行なっていく、ということも謳い込ませていただく。

ということで、総合計画というものを全体で捉えると、まず市民にとって総花的な部分で、私共も含めて10年後はこうあってほしいというものを提示させていただき、それに対して現

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	11/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

状持ちえている私共の能力、財政的なもの、市独自の財源、国が示す事業、これらを含めたなかでどのように落とし込み、取り組んでいくかをその都度考えていかなければならない。それは細かく記述をしていく部分というものが、それに該当するということになります。

長くなってしまったようではございますけれども、そのようなことを細かく市民の皆様にご説明をする場というものも、おそらくこれまでの、第三次の総合計画策定までの間に無かったと思います。総合計画ってなんだろう、そんな格好いいこと言ったってできるわけないじゃないかと、どこ行っても怒られます。しかし実際そのような重層構造になっているということと、あとは私共の単独ではなく、国県の施策との非常に密接なリンクの中で計画があるということについても、ご理解をいただいております。

なおかつ、そうは言いながらも与えられた条件の中で、いかにそれを活用しながら、このまちにとって必要なものをきちっと処置していくのかということが我々に課せられている課題です。そうした面では、今回のこの計画策定、そして実行にあたっては、先ほど冒頭に戻りますけれども、市民の皆さんのお力をお借りしながら、そして市民の皆さんに自ら考えていただくことによって、共に車の両輪となって、予算の措置をさせていただきながら取り組んでいくことが、これからますます必要になってくると思います。

そのようなことから、池田市の例など非常に私も興味がある例を聞いていただきましたので、こうした取り組みをはじめ、これから全国各地、私共含めて色々な試行錯誤があろうかと思えます。それは、まさに、この少子化社会、高齢化社会という大きな負担をどこのまちも負いながら、きちんとお互いに助け合いをし、譲り合うところは譲り合い、お互いに幸せというものを享受していく、こういうコミュニティとして成さなければならないことを、さらに徹底的に真剣に求めていかなければいけない時代になります。ゆえに、私共だけではなく、全国各地色々なところの事例を研究させていただきながら、私共自身もそれらの部分に対してクリエイティブに考えさせていただきながら、総合的に取り組んでまいりたいと思います。

#### 【質問者】

市が良く「これは危険だからやっちゃいけない」ではなく、市が責任を持つような計画でやっていたきたい。

#### 【市長】

ありがとうございます。そうした部分、勇気を持って私共のほうからもまたご提言を申し上げたいと思いますし、今回の総合計画の基本構想素案の段階で今ご提示申し上げました。また色々パブリックコメント等含めてご指摘ご意見を頂戴したいと思います。どうか引き続き一生懸命取り組みを進めてまいりますので、ご指導、ご助言、ご協力を賜りたく存じます。今日非常に寒い中遅くまでお付き合いいただきましてありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。結びのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

#### 【市役所】

件名	第2回地域別懇談会【ひばりが丘・小松原地域】	頁	12/12
日時	平成22年3月25日(木)19:00~21:00	場所	小松原コミュニティセンター

ありがとうございました。本日は貴重なお時間とご意見をいただきまして誠にありがとうございました。これをもちまして第2回地域別懇談会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。